

# 東日本大震災現地調査報告

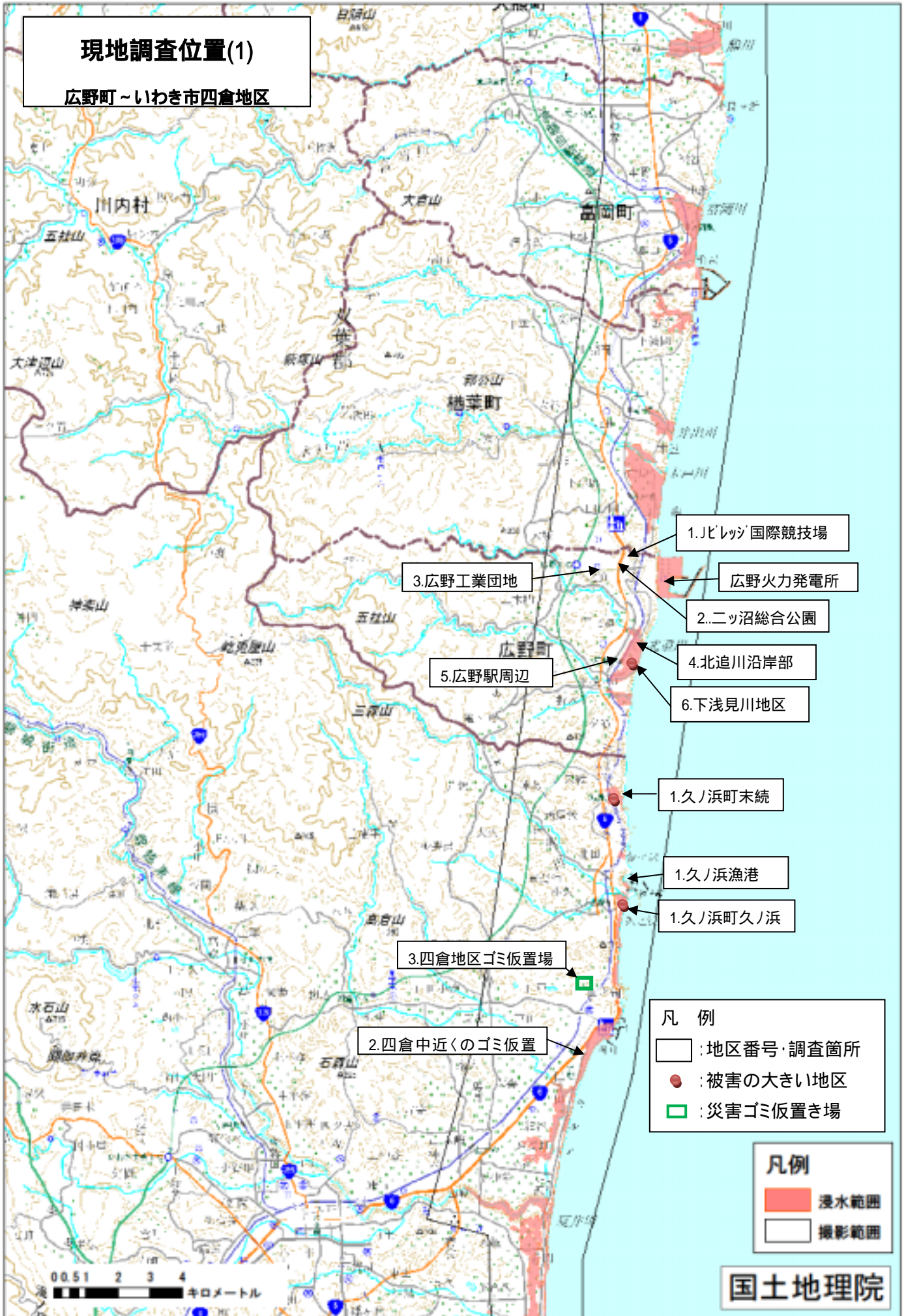
## 広野町～いわき市

平成 23 年 5 月 7～8 日

公益社団法人 日本技術士会 防災支援委員会

# 現地調査位置(1)

広野町～いわき市四倉地区



1. Jilejia 国際競技場

広野火力発電所

2. ニッ沼総合公園

4. 北追川沿岸部

6. 下浅見川地区

3. 広野工業団地

5. 広野駅周辺

1. 久ノ浜町末続

1. 久ノ浜漁港

1. 久ノ浜町久ノ浜

3. 四倉地区ゴミ仮置場

2. 四倉中近くのゴミ仮置

凡例  
□ : 地区番号・調査箇所  
● : 被害の大きい地区  
□ : 災害ゴミ仮置き場

凡例  
■ 浸水範囲  
□ 撮影範囲

国土地理院

0 0.5 1 2 3 4  
キロメートル

## 広野町現地調査報告(H23.5.7)

広野町は、人口 5,500 人程度で、面積 58 k m<sup>2</sup> の小さな町で、町の財政は東電の火力発電等に大きく依存している。当該町は「緊急時避難準備区域」となり、当初田村郡小野町に役場機能を移転したが、4 月 15 日にいわき市湯元支所に町役場機能を移動した。地域住民はほとんどが町外に避難している。

また、今回の地震・津波災害で、上水道等に大きな被害を受けたのに加え、原子力災害で双葉地方水道事業団の浄水場がある楢葉町に立入れず、その復旧が出来ていない。現在、広野町の一般家庭用水道及び工業用水が供給できない状態にある。

### 1. Jビレッジ 国際競技場

Jビレッジ 国際競技場は、福島第 1 原発支援の前線基地として、自衛隊員・支援作業員等の宿泊・休憩等施設となっている。作業員は、朝 8 時頃に放射能防護服に着替えてバスで原発施設に向かう。



Jビレッジ 前の町界より先は立入禁止区域



自衛隊員は施設内で放射能防護服に着替え

### 2. ニツ沼総合公園施設と国道 6 号の状況

ニツ沼総合公園は、旧伝習農場跡地に町内総合運動公園として開園したもので、パークゴルフ場・サイクリングコース、体育館・宿泊施設を有し、広野町初め、近隣町村からも利用される総合公園である。今回の原発事故では、原発復旧支援企業の現地対策本部として使用されている。

前面道路の国道 6 号は、道路下にニツ池が存在する箇所で大々く崩壊し、上り線側が通行止めの片側通行で運用されている。(H23.5.7 現在)



ニツ沼総合公園沿いの国道 6 号上り線が崩壊



公園内施設は企業現地対策本部に活用

### 3. 広野工業団地

広野工業団地には、15の企業が入っており、広野町の就労の場として大きく貢献している。現在、従業員である町民が町外避難しており、工業団地内の企業は休止状態にある。また、工業団地への主要なアクセス路の一つは、地震による路面陥没等により、車両が通行できない状態にある。別方向からのアクセス路は確保されており、工業団地まで行くことは可能である。



広野工業団地内企業

工業団地内企業は、全面操業停止となっている(従業員不在・工業用水ストップ等が原因)。



主要アクセス路は、舗装クラックで、通行止めとなっている



### 4. 広野町沿岸部(北追川周辺沿岸)



北追川沿岸護岸は津波で流失



北追川護岸が津波で崩壊



北追川の水道橋欠損(対岸の青色のパイプ)



仮設水道管を県道沿い敷設(火力発電所用)

## 5 . 広野町中心市街地(広野駅周辺)

広野駅西側が、広野町の中心街で、津波は常磐線の線路のところまで約 500m程到達している。駅西側に位置する中心街は、津波による大きな被害は見受けられないが、古い家屋やブロック塀等は、地震によって倒壊している。

常磐線の電車も、広野駅から久ノ浜駅にかけて線路上に止まっており、この間で 2 台の電車が線路上に止まっているのを見かけた。



広野町中心街の倒壊家屋



常磐線の線路上に停車中の電車

## 6 . 下浅見川地区(被災状況)

広野町では、最も被害の大きかった地区の一つで、津波被害により地区の家屋・水田は、壊滅的被害を受けた。沿岸部に建設中の浜街道も、もう少しで全線供用の予定であったが、建設中の重機諸共津波に流され、浜街道の盛土も大きくえぐられている。



下浅見川地区は大きな被災を受けた



浜街道は開通間近で壊滅的被災を受けた



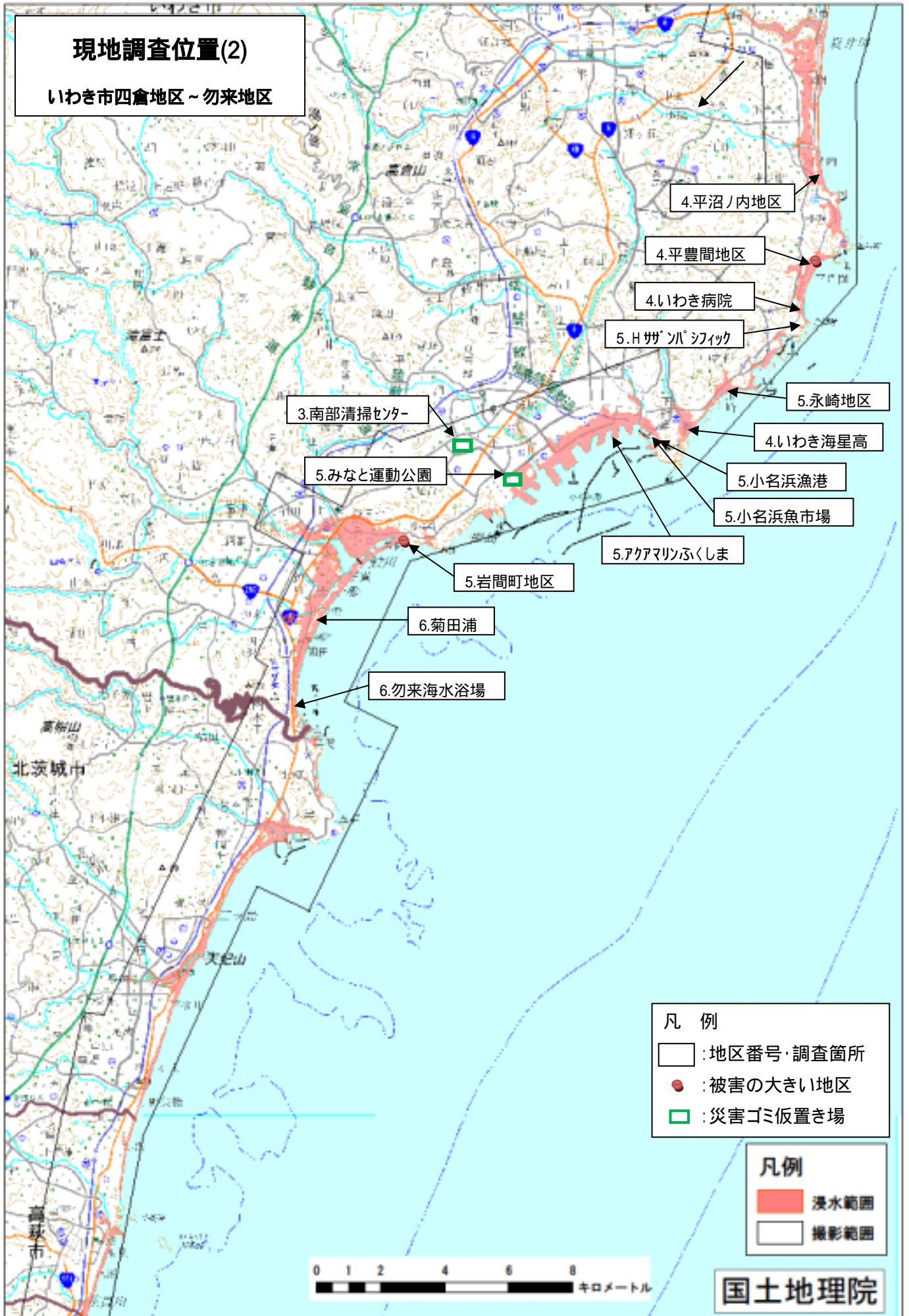
家屋の 1 階部分は家具等が流出



浜街道建設中の重機が転倒している

# 現地調査位置(2)

いわき市四倉地区～勿来地区



凡例  
□ : 地区番号・調査箇所  
● : 被害の大きい地区  
□ (green) : 災害ゴミ仮置き場

凡例  
■ (red) : 浸水範囲  
□ (white) : 撮影範囲



国土地理院

## いわき市現地調査報告(H23.5.7)

いわき市は、昭和 41 年に 14 市町村が合併して出来た市で面積 1,200km<sup>2</sup>、現在の人口が 34 万人の福島県浜通り地方の中核都市である。

いわき市では、東日本大震災(5/6 現在)で、死亡 301 人、行方不明 82 人、避難者 1,664 人(久ノ浜地区 282 人)の被災で、中でも久ノ浜町末続地区、久ノ浜地区が大きな被害を受けている。

### 1. 久ノ浜町地区(末続～金ヶ沢～久ノ浜港地区)

久ノ浜町末続・久ノ浜地区は、被害が大きく、地区代表が死亡した末続地区では、がれき撤去要請等が市に伝わりにくくなっている。

久ノ浜地区では、がれき撤去に向け、地区住民が撤去への同意や保存依頼等の貼り紙等のため車で現地を確かめに来ているような光景が見受けられた。



末続地区(当地区は 25 世帯流出、7 人死亡)



久ノ浜漁港陸地に打上げられた漁船



久ノ浜地区の密集市街地は壊滅的被害を受けており、一部火災も発生している。



久ノ浜沿岸部で被災を受けた幼稚園



久ノ浜南町の旧道沿いでのボランティア活動

## 2. 四倉町地区（四倉町～新舞子浜海岸）

四倉町地区は、久ノ浜町地区に比べれば市街地での被害は比較的小さいが、四倉港の加工場等が大きく被害を受けている。

オープンしたばかりの『道の駅四倉港』の一部も被災を受けてが、5月8日の日曜日には、地域の人達等で「うに飯」弁当などの地域特産のものを販売していた。



『道の駅 四倉港』は、津波で一部損壊したが、地域の人が元気に地域の特産物等を販売していた。



四倉中学校前県道上のゴミ仮置き場



津波を浴びた家具類のゴミ置き場(新舞子海岸)



新舞子海岸の被災家屋



波立地区の横断歩道橋の海岸部基礎



### 3. いわき市の災害ゴミ仮置き場の設置

いわき市では、家庭からの災害ゴミの仮置き場として、四倉運動公園、小名浜港運動施設、勿来運動場と、地区別に受け入れ施設を設定して分別・処理を行っている。

四倉地区では、四倉市民運動公園を家庭の災害ゴミの地区受入れ先としており、日曜日には一般市民の災害ゴミを積んだ車が多数入ってきている。



四倉地区ゴミ仮置き場受付(市民運動場)



受付ブースとゴミ仮置き場の場内



災害ゴミの分別収集(ガレキ類)



災害ゴミの分別収集(燃えないゴミ類)



災害ゴミの分別収集(燃えるゴミ類)



タイヤ・ビン・消火器等は持ち帰り

#### 4. 平地区（平沼ノ内～平豊間）

平地区は、津波の被害で護岸転倒の被害が多く、平沼ノ内、平豊間で大きな被害を受けている。離岸堤等の設置されている地区は、護岸損傷や家屋被害等が若干少なめに見える。

いわき市の中でも久ノ浜町地区～平豊間までの海岸線は、南北方向に太平洋と並行し、小名浜地区～勿来地区に比べて、津波のエネルギーをまともに受ける形となっている。

また、海岸線に砂浜もある地区とない地区では、津波の影響に変化があるように思える。



平沼ノ内は津波で護岸が欠損し、家屋被災等の規模を大きくしている。



平豊間地区八幡町では津波による大きな被害を受けた(潜堤箇所は若干被害が少ない)。



海水下の潜堤の位置表示



いわき病院（合磯海水浴場付近）

## 5. 小名浜地区(Hサッパシヅク～永崎地区～小名浜地区)

小名浜地区は、太平洋に面する海岸線の角度もあり、これまでの地区と比較すると全体的な被災規模は小さいが、地形形状等や海岸線・河川条件等によって大きな害を受けている地区もある。

また、小名浜港の慣行市場やアクアマリンふくしま等は、津波の影響を受けて閉鎖している。



Hサッパシヅクからの合磯海水浴場(砂浜があり被害が少ない)と合磯岬内湾(周辺は岩盤で家屋流出)



永崎地区天神前川河口両岸の家屋倒壊



いわき海星高は津波被害で校舎内立入禁止



小名浜観光魚市場は被災で閉鎖中



アクアマリンふくしまは復興工事で閉鎖中

小名浜地区の災害ゴミ仮置き場は、みなと運動公園に設置されており、家庭の災害ゴミは、がれき、燃えるゴミ、燃えないゴミ、家電類と分類して仮置きされている。(小名浜港運動施設)



災害ゴミの分別収集(燃えるゴミ類)



災害ゴミの分別収集(家電ゴミ4分類)

#### 6. 勿来地区(岩間町地区~勿来町九面地区)

勿来地区は、いわき市の中では全体的には被害の少ない地区だが、地形条件、海岸条件等によって大きな被害を受けている地区(岩間町等)もある。



岩間町海岸護岸倒壊、常磐共同火力発電休止中



岩間町地区の倒壊家屋の撤去作業



菊田浦付近も津波浸水を受けたが被災は少ない



勿来海水浴場の  
トイレに残る津波の痕跡

文責：防災支援委員会委員長 大元 守